

2. 今年のトピックス等

5) 新しいお米の品種「空育180号」、「空育酒177号（きたしずく）」

I. 空育180号

1. はじめに

北海道米の生産量は約 64 万トン（平成 24 年）で、およそ半分が「業務用米」外食産業やテイクアウト等の中食産業で消費される。北海道米は一定の品質で大量供給できるというメリットがあり、市場からの引き合いは強い。特に「きらら 397」は、粘りがやや弱く、食感がやや硬いことから井ものを中心に評価が高く、実需からは質・量共に安定供給が望まれている。

しかし、業務用米の取引価格は一般食用より低く設定されており、収量性が「ななつぼし」より低い「きらら 397」では生産者の収入確保には限界がある。また「きらら 397」の耐冷性は“やや強”と現行品種の中で最も弱く、いもち耐病性も不十分なことから生産の安定性に不安がある。従って、生産者の作付け意欲を向上させ、実需からの要望に応えるためには、低価格を補える多収性と低コスト・安定生産可能な優れた農業特性を有し、さらには業務用に適した炊飯適性を併せもつ、新たな品種の開発が必要とされてきた。

2. 育成経過

「空育 180 号」は平成 18 年に中央農業試験場において、耐冷・耐病・多収業務用品種の育成を目標に、良質・良食味系統「上育 455 号」を母、早生・耐冷・耐病・多収品種「大地の星」を父として人工交配を行った雑種後代から育成された。

3. 特性の概要

(1) 形態的特性：「きらら 397」に比較し、本田の初期から中期の草丈は長く、分けつは少ない。成熟期の稈長は長く、穂数は並、一穂粒数は多く、草型は“偏穂数型”である。芒性は“中短”。割粒の発生は“やや少”である(表 1)。

(2) 生態的特性：出穂期は“中生の早”、成熟期は“中生の中”で、「きらら 397」とほぼ同等の早晩性である。「きらら 397」に比較し、耐倒伏性は“やや弱”と弱く、穂ばらみ期耐冷性は“強”と強く、開花期耐冷性は“やや強”と並である。いもち病圃場抵抗性は、葉いもちが“強”、穂いもちは“やや強”といずれも強く、玄米収

道総研 中央農業試験場 生産研究部 水田農業G
量は多い(表 1、図 1)。

(3) 品質・食味特性：玄米品質は「きらら 397」並の“上下”。玄米白度は「きらら 397」より低いが、白米白度は並。アミロース含有率は、「きらら 397」より高く、タンパク質含有率は低い。食味は、「きらら 397」並の“中上”で、炊飯米の粘りや柔らかさが「きらら 397」と同程度であり、井等の業務用途に適している(表 1、図 2)。

4. 普及態度

1) 普及見込み地帯：上川(名寄市風連以南)、留萌(中南部)、空知、石狩、後志、胆振、日高、渡島、檜山各振興局管内

2) 普及見込み面積：23,000ha

3) 栽培上の注意事項

(1) 耐倒伏性が劣るため、北海道施肥ガイドに基づき適切な施肥に努める。

(2) 初期の分けつ性がやや劣るので、初期生育が劣る圃場条件では、初期生育を促進する栽培法を心がける。

II. 空育酒177号「きたしずく」

1. 育成経過

北海道では酒造好適米「吟風」「彗星」が作付けされているが、「吟風」は耐冷性が不十分で、改良が必要であった。「きたしずく」は平成14年に道南農試において、耐冷性品種育成を目的として、府県酒造好適米の雄町を母、耐冷良食味品種「ほしのゆめ」を父として行われた交配後代のF1を母とし、酒造好適米品種「吟風」を父とした人工交配の雑種後代から育成された。平成16年からは中央農試が育成場となった。

2. 特性の概要

中間型の草型で、出穂期、成熟期は共に「吟風」並の“中の早”である。「吟風」に比較し、穂ばらみ期耐冷性は“強”、開花期耐冷性は“中～やや強”と共に強い。いもち病圃場抵抗性は、葉いもちが“やや強”、穂いもちは“中”と共に「吟風」に劣る。玄米収量は多く、心白発現は「吟風」よりわずかに多く、やや大きい(表 2)。酒造適性は良好で、酒質は「吟風」(濃醇甘口)、「彗星」(淡麗辛口)の中間である(表 3)。

表1 「空育180号」の生育、収量および特性

系統名 品種名	初期 茎数 (本/㎡)	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	成熟期の			一穂 籾数	玄米重 (kg/㎡)	玄米重 標準比 (%)	玄米 千粒重 (g)	玄米等級
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)					
空育180号	380	7.27	9.12	74	17.4	621	54.1	62.9	108	23.4	1中 (2.2)
きらら397	444	7.28	9.13	66	16.4	630	51.9	58.5	100	23.3	1中 (2.4)
ななつぼし	395	7.28	9.12	73	16.8	590	55.9	60.1	103	22.2	1中 (2.4)

系統名 品種名	芒の 多少 ・長短	割籾 歩合 (%)	耐倒伏性	耐冷性		いもち病抵抗性		タンパ ク質 含有率 (%)	アミ ロース 含有率 (%)	玄米 白度	白米 白度
				穂ばら み期	開花期	葉 いもち	穂 いもち				
空育180号	中・短	10.1	やや弱	強	やや強	強	やや強	6.6	21.0	19.2	40.6
きらら397	稀・短	16.0	中～やや強	やや強	やや強	やや弱	中	7.1	19.9	19.8	40.5
ななつぼし	少・短	19.7	やや弱	強	強	やや弱	やや弱	6.8	19.0	19.0	41.2

注) 数値は普及見込み地帯における農試・現地試験結果の平均値(平成23～25年、標肥、n=50、初期茎数のみn=47)。太字は優
点、斜体は欠点にあたる項目。玄米重標準比は「きらら397」を100としたときの値。玄米等級の数値は10段階評価1(1上)
～9(3下)、10(外)とした値。

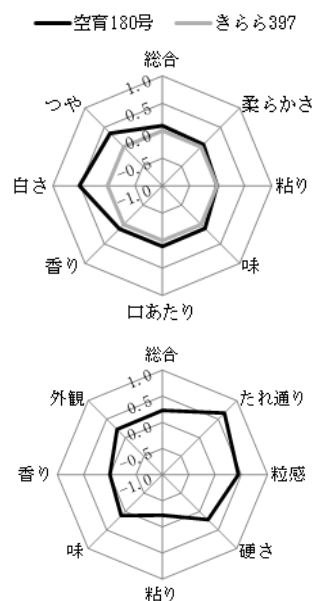
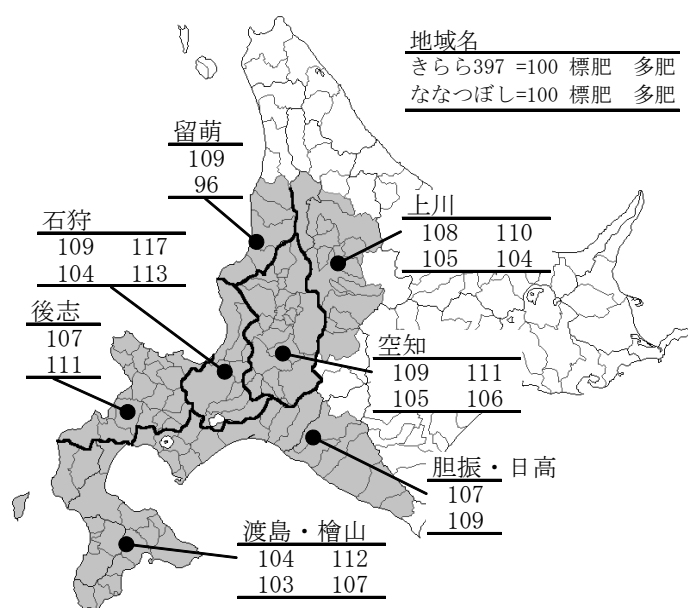


図1 「空育180号」の普及見込み地帯における収量

図2 「空育180号」の食味評価(上)

表2 「きたしずく」の生育、収量および特性

品種名	初期 茎数 (本/㎡)	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	成熟期の			一穂 籾数	玄米重 (kg/㎡)	玄米重 標準比 (%)	玄米 千粒重 (g)	玄米等級
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)					
きたしずく	376	7.28	9.16	72	17.2	544	51.4	60.5	105	26.3	1下 (5.1)
吟風	402	7.30	9.17	67	17.0	495	60.9	57.4	100	24.3	1下 (4.5)
彗星	385	7.29	9.17	69	17.2	504	55.6	60.7	106	25.7	1下 (4.9)

品種名	芒の 多少 ・長短	割籾 歩合 (%)	耐倒伏性	耐冷性		いもち病抵抗性		タンパク質 含有率(%)	アミロース 含有率(%)	心白 発現率 (%)
				穂ばら み期	開花期	葉 いもち	穂 いもち			
きたしずく	稀・短	9.8	やや強	強	中～やや強	やや強	中	7.3	23.8	91.3
吟風	稀・短	11.2	やや強～強	やや強	極弱	強	やや強	7.6	23.1	88.3
彗星	少・短	19.2	やや強～強	強	極弱	やや強	やや強	7.2	23.9	66.5

注) 数値は普及見込み地帯における農試・現地試験結果の平均値(平成20～24年、標肥、n=39)。太字は優
点、斜体は欠点にあたる項
玄米重標準比は「吟風」を100としたときの値。玄米等級の数値は12段階評価1(特上)～11(3下)、12(外)とした値。

表3 「きたしずく」の清酒官能試験

品種名	総合	吟醸 香	味の 品質	味の 濃淡	味の 甘辛	香味の 調和
きたしずく	n=7 2.20	2.54	2.20	2.16	2.13	2.13
吟風	n=5 2.25	2.33	2.11	2.53	2.33	2.17
彗星	n=2 2.72	3.33	2.61	1.87	1.58	2.83